

4 5・6 新小学生980人 新中学生905人



↑元気いっぱい「1年生になったら」を合唱
←担任の先生と対面「はじめまして」

市内の各小中学校で4月5日と6日、入学式が行われました。写真は堀金小学校の様子。山崎悦夫校長は入学式で「あいさつをしっかりしてください。人の話をきちんと聞けるようになってください。車には十分気をつけてください」と新入生にあいさつしました。新入生

は校長先生からのお願いに大きな声で返事をしていました。この4月に市内の小中学校に入学した子どもは、小学生が980人、中学生が905人となり、昨年の1年生と比べると、小学生がほぼ横ばい、中学生は50人近く減少しました。



↑ぼく、わたしの先生

3 25 20年後の美しい桜を想像して「光城山桜の里づくり」



親子連れなど60人が参加

桜の里山づくり植樹祭が3月25日、光城山で行われました。この日は、市民や関係者など約60人が参加。光城山中腹の登山道脇の斜面に50本の山桜の苗を植えました。参加者は、急斜面での作業に苦労しながら、くわで穴を掘り、肥料を入れ、苗木を植えて自分の名前を書いた杭(くい)を打ち込みました。昨年9月に長崎県から引越してきたばかり女性は「地域のために何かできればと孫と一緒に参加しました。光城山の桜は、見たことがないのでとても楽しみです」と話してくれました。

2 28 温泉療養指導士1期生 市内から9人が認定

長野県温泉協会は2月28日、「温泉療養指導士」の認定式を長野市内で開き、穂高、三郷の旅館のスタッフら9人が認定を受けました。この温泉療養指導士は、温泉による健康づくりをアドバイスしたり、温泉の効用を説明する人材を育てるために同協会が初めて設けた資格です。この資格を取得するためには、温泉

療法の専門医などから温泉の歴史や生理学などを学ぶことが必要で、すべての課程を修了した人が認定を受けます。認定者の一人で、穂高の温泉旅館で働く重野実喜子さんは「今後、湯治や長期滞在に対応できる体制づくりの力になれば」と話してくれました。



温泉による健康づくりをアドバイス

3 15 三郷の「古民家移築作業」かやぶき工事が終了

三郷サラダ市西側で工事が進む「やすらぎ空間施設」で3月15日、移築している古民家のかやぶきのふき替えが終わりました。昔の雪国では、春の雪が解けたころに見られたこの作業。小谷村の職人の手できれいにかやを刈りそろえ、仕上げました。この古民家は農業体験施設が併設され、そば打ちや味噌作りなど体験できる施設になり、5月下旬にオープンする予定です。



仕上げにかやを刈りそろえる

3 26 安曇野明科子ども駅伝大会 子どもたちが健脚を競い合う

子ども駅伝大会が3月26日、明科の水辺の楽校で行われました。市内外から約70人が10チームに分かれて参加し、1周約1.3kmのコースで、たすきをつなぎました。

優勝「ファイトいっば一つ!」チーム



- 塩原 萌香 (明北3年)
- 山下 武流 (明南1年)
- 児玉 奈美 (明北1年)
- 渡辺奈津子 (明北3年)
- 伊藤 千尋 (明南3年)
- 栢下 汀 (三郷6年)
- 猿田 孝平 (大桑6年)

3 7 特産の玉ねぎ 調理のコツを学ぶ

豊科のレストチロルは3月7日、豊科の特産である玉ねぎを使った「玉ねぎ料理の講習会」を開催しました。参加者は、シュウマイなど4品のプロの調理法を学びました。講師の縣房弘さんは「料理によって最適な調理法があり、面白い食材」と玉ねぎの魅力を話してくれました。



よく炒めるほど甘みが増す

3 21 川端康成・井上靖・東山魁夷の足跡をたどる



安曇野の魅力を知り

国営アルプスあづみの公園で3月21日、安曇野を訪れた作家の川端康成、井上靖、日本画家の東山魁夷の足跡を研究者が語るトークセッションが開催されました。3人は昭和45年の春にそろって安曇野を訪れ、それぞれこの地の魅力を語っています。パネリストの話や展示の資料は3人の感動を伝え、訪れた参加者は改めて安曇野の魅力について考えている様子でした。